

ICT リテラシー (情報技術論) A

-- 第 14 回 : アルゴリズム --

栗野 俊一

講義内容の静止画・動画での撮影、及び SNS 等への転載を固く
禁じます

2025/01/10 ICT リテラシー (情報技術論) A

伝言

私語は慎むように !!

□ 席は自由です

- できるだけ前に詰めよう
- コロナ対策のために、ソーシャルディスタンスをたもとう

□ 色々なお知らせについて

- 栗野の Web Page に注意する事

<http://edu-gw2.math.cst.nihon-u.ac.jp/~kurino>

- google で「kurino」で検索

お知らせ

ICT リテラシー (情報技術論) A

お知らせ

講義内容の静止画・動画での撮影、及び SNS 等への転載を固く禁じます

お知らせ

□ 出席状況が公開されています

- 自分の出席状況を **eclink** で確認してください
- 出席に関して疑義がある場合は **WebClass** のアンケートに教えてください
 - ▶ 提出期間：2025/01/15[水] - 2025/01/25[日]

□ 課題について

- 提出期限：2024/01/25[日]
 - ▶ 試験日はアクセスできません
 - ▶ 試験の関係で、期限前も提出できない事があります

試験について

ICT リテラシー (情報技術論) A

試験について

講義内容の静止画・動画での撮影、及び SNS 等への転載を固く禁じます

試験について

□ 試験の情報

○ 日：15 回目の講義日 (講義時間中 or 当日の夜 20:00 ~)

○ 時：講義時間

▶ 都合が悪くて参加できない場合は、WebClass のアンケートに答える (設定が必要)

▶ 「別試験」は、基本、当日の夜、2025/01/18[土] 10:40 ~ / 20:00 ~ に行います

○ 場所：Network から WebClass を参照して行う => 教室では行わない

▶ 栗野も zoom で自宅から参加する

○ 質問：試験時間中に Zoom で対応

○ 形式：WebClass での On Line テスト

▶ これまでの小テストの問題 (合計 200 問越) から 100 問 (少し、変更、追加予定..)

▶ 乱数によって、出題されるので、人によって、問題が異なる (多少、運の善し悪しがある..)

□ 模擬試験：基本、本番と同じ形式で問題が出る

○ 正解も表示される/同じ問題しかでない/本番と違い、採点結果が出る

▶ 色々な問題をしたい場合は、課題の方で試す

試験が受けられなかった場合

- 試験が受けられなかった場合:「別試験」を行います
 - 共通の「別試験」日時 : 2025/01/18[土] 10:40 ~ / 20:00 ~
 - 当日、試験が受けられなかった人は、WebClass のアンケートに教えてください
 - ▶ 連絡期間: 2025/01/17 [金] ~ 2024/01/25 [土]
- もし、共通の別試験日時 (2025/01/18[土]) の都合が悪い場合は、
 - 更に、受講可能日時の候補を最低『三つ』列挙する
 - 可能な日時 (2025/01/19[日] ~ 2025/01/25[土])
 - ▶ 早朝、深夜も一応、対応可だが、出来るだけ、常識的な時間に..
 - 上記も更に都合が悪い場合も、連絡は必ずください (相談しましょう..)
 - ▶ この場合は、調整のため、試験終了後、できるだけ早くください (候補も挙げる事)

試験範囲

- 試験範囲は「OS」(本日の講義内容) まで
 - 課題も、「13 回目の OS 」まで
- 残る講義内容
 - 動画を作成したので、参照して欲しい
 - ▶ 14 回 アルゴリズム
 - ▶ 15 回 データベース

アルゴリズム

ICT リテラシー (情報技術論) A

アルゴリズム

講義内容の静止画・動画での撮影、及び SNS 等への転載を固く禁じます

アルゴリズム

□ アルゴリズムとは

○ ある「問題」を解く アルゴリズム の定義

- ▶ 確定性：明確な手順の有限な列で表現されている
- ▶ 正当性：その「問題」を解く(解を求める)事ができる
- ▶ 停止性：有限時間で終了する

○ 問題に対して、アルゴリズムが与えられれば、

- ▶ アルゴリズム(の示す手順を適用する事)により、答を得る事ができる
- ▶ 例: 公式(計算の手順が与えられる)、ユークリッドの互除法(最大公約数の求め方)、筆算、10進2進変換

○ 数学的に問題を「解く」事

- ▶ 問題の「答えを得る」事ではなく、「答えを得る手段(アルゴリズム)を得る」事
- ▶ アルゴリズムがあれば、(答えを知らない)問題の答えが得られる

□ 知識の構造

○ 問題は What : 問題の答となるものを定義

○ アルゴリズムは How to: 問題の答となるもの求める手段

□ コンピュータに答を求めさせるには、アルゴリズムが必要

○ アルゴリズムが明確でない問題をコンピュータにやらせるのは難しい..

○ Deep Learning は、「(ある種の拡張された)アルゴリズムを求める」アルゴリズム

- ▶ Deep Learning は正当性(問題定義)の点で、課題(正確性)を抱えている

プログラム

ICT リテラシー (情報技術論) A

プログラム

講義内容の静止画・動画での撮影、及び SNS 等への転載を固く禁じます

プログラム

□ プログラム (Text p.77 6.2 節)

○ プログラムとは

- ▶ 定義：アルゴリズムをコンピュータに扱える(実行できる)ように表現した物
- ▶ プログラムをコンピュータに与えると、アルゴリズムを実行してくれる

○ ソフトウェア

- ▶ 特定なシステム(CPU/OS上)で、実行可能なプログラム

プログラミング言語

□ プログラミング言語とは (Text p.77 6.2.1 節)

○ プログラムを記述するために作られた人工的な言語

- ▶ ハード(電気回路)でも、アルゴリズムが表現可能
- ▶ 柔軟性を高めるために、ソフト(プログラム)で、機能を追加

□ プログラミング言語の分類

○ 手続型：何(What)を、どうするか(How to) という処理手順を記述する

- ▶ 例：C++, Java, Python, etc..
- ▶ 特徴：CPU の命令に対応する指示を直接指定できるので、効率が良い

○ 非手続型：手続型以外のプログラミング言語

- ▶ 特徴：手順の記述が不要なので、プログラム書き易いが、(手順がないので)非効率な事が多い
- ▶ 関数型：問題の解を求める関数の定義を行う(例：Lisp, ML)
- ▶ 論理型：問題の解が満す条件を指定し、解を求めさせる(例：Prolog, SQL)

色々なプログラミング言語

□ 低級言語：CPU 依存する

- 機械語：CPU への命令の並び (CPU 毎に異なる / 2 進表現)

 - ▶ アセンブリ言語：機械語の命令とほぼ 1 対 1 で表現可能 (文字列表現)

□ 高級言語：CPU と独立 (言語処理系 [翻訳/通訳 を行うプログラム] が必要)

○ 手続型

 - ▶ Fortran：最初の高級言語 (科学技術計算に利用) / Basic：Fortran 教育用簡易版

 - ▶ Cobol：商業計算用

 - ▶ Algol (Pascal)：アルゴリズム記述用 (データ構造)

 - ▶ C 言語：Unix OS を記述されるために、設計 (free な Unix と一緒に広く利用される)

 - ▶ C++：Object 指向型 / Java：仮想 CPU の実装 (OS から独立) / Python：ライブラリが多く、Deep Learning で利用

 - ▶ Javascript：Java とは名前が似て居るが、別物 (HTML と併用される)

- 関数型 Lisp：シンボル処理言語 (人工知能のアセンブラ / ラムダカリキュラス)

- 論理型 Prolog：論理プログラミング言語 / SQL：関係データベースを操作する言語 (DB 専用言語)

□ マークアップ言語：プログラミング言語ではなく、Content を記述する言語

- HTML：Web Page 記述 (javascript と組み合わせる事により、機能を持つページが作

プログラムの内部動作

□プログラムの内部動作 (Text p.78 6.2.2 節)

○CPU が理解できるプログラムは機械語のみ

- ▶メモリ上に記録されている命令も機械語の命令 (2進数)
- ▶チューリングマイシと同じ(ノイマン型)なので、命令とデータの区別がない
- ▶CPU にとっては都合がよいが、人間には分かり難い (低級言語)

□言語処理系

○(機械語以外の) 言語で記述されたプログラムを実行できるようにするプログラム

- ▶コンパイラ(翻訳系) : 機械語に変換 (翻訳) する / 一度に変換 / 変換がおわれば不要
- ▶インタープリター(通訳) : 機械語に変換 (通訳) する / 逐次変換 / いつでも必要

高級言語の基本処理

□ 高級言語の基本処理 (Text p.79 6.2.3 節)

○ 手続き型言語(C++,Java,Python) によるプログラム記述

- ▶ 変数操作(入力,出力,代入,参照)を命令に基本として、その手順を記述
- ▶ 操作手順の記述(プログラム)がアルゴリズムを表現する

□ 基本操作

○ 変数：名前がついた記憶領域(データを記録できる)

- ▶ 名前を指定して、その値を取り出す(参照)や、値を記録させる(代入)が可能

○ 代入：変数に値を記録するように指示する事 (値は計算された結果になる)

○ 参照：変数名を指定して、その変数に記録されている値を取り出す事 (値は何度、参照しても変わらない)

○ 式 (四則計算)：代入する値を「計算式」の形で表現すると、その「式」の値が計算される

- ▶ 式で利用可能な演算子は言語によって異なるが、四則は (+, -, *, /) が共通で利用できる

□ 制御構造：命令の実行の可否や、繰返し等を指示する構文

○ if 文(条件判断)：条件によって、指定した命令を実行したりしなかったりを表現する

○ for 文(繰返し)：条件によって、指定した命令を繰り返すか止めるかを表現する

データベース

ICT リテラシー (情報技術論) A

データベース

講義内容の静止画・動画での撮影、及び SNS 等への転載を固く禁じます

データベース

□ データベース (Text p.81 6.3 節)

○ データベースとは：構造化した情報またはデータの組織的な集合(what)

- ▶ 大量のデータを保存、管理でき、データの検索、書き換えが容易に行えるもの(利用目的)
- ▶ 例: (小規模)学籍簿、住所録、(大規模)銀行のオンラインシステム、戸籍

○ データが単に集っているだけではだめ

- ▶ ビッグデータ (売上情報)：構造化されていないとデータベースと言えない
- ▶ 表紙が破れていたり、向きも順も適当に乱雑に本が詰めてある本棚は役に立たない
- ▶ 整理され、書名順、著者順等に並べられた本棚は有用 (図書館学)

○ データベースに必要な三つの要素

- ▶ 検索速度：欲しいデータが短い時間で、データベースの中から探せる (構造化、索引)
- ▶ データ量：大量のデータが扱える (メモリに入らない量も扱える)
- ▶ 完備性：データの一貫性や整合性が保たれている (一部を削除した場合、関連した項目も一緒に削除)

データベースの表現法

□ データベースの表現法 (Text p.82 6.3.2 節)

○ レコード(記録) : データベース内に記録されているデータの単位

▶ データベースの表現方法 : レコード間の「関係」の表現方法

○ 階層的表現 (木構造)

▶ データを親, 子, 孫のような階層構造に並べて木の形に表現

▶ 最上位の親からたどることによって検索

▶ cf. 分類、会社組織、住所、ファイルシステム、ドメイン名

▶ 木構造の概念 : 親子[上下]関係, 根(root), 葉, 枝, 子孫, 祖先, 兄弟

▶ 木構造の得失 : 経路が一通り(高速/効率が良い)/全ての状態が表現できない(兼任問題)

○ 網的表現 (ネットワーク構造)

▶ データをノード(普通のレコード)、データ間の二項関係をアーク(関係レコード)としたネットワークで表現

▶ 特定なデータから、関係を手繰る事によって、他のデータを探す(連想ゲーム)

▶ cf. 人間の記憶構造、(AI の)専門化知識、知り合いの関係、WWW, 実体関連モデル

▶ 網構造の得失 : 任意の状態を表現/必要な情報のみ記録/構造がデータに依存(数学的な構造がない)

○ 関係的表現 (表構造 : リレーショナルデータベース)

▶ データ間の(n項)関係を表で表し、表の集合で表現

▶ 表を操作する事により、目的のデータを含む表を作成する

▶ cf. Excel シート、時刻表

▶ 表構造の得失 : 汎用的な表操作だけ/効率が悪い(汎用的過ぎる)

関係的表現のデータ操作

□ 関係的表現のデータ操作 (Text p.84, 6.3.3 節)

○ 関係的表現の操作：数学的な集合操作に対応 (数学的な基礎がある)

▶ エドガー=コッド「関係的表現の数学的基礎」(1970)

○ 集合演算

▶ 合併：和集合を求める(OR)

▶ 共通部分：共通集合を求める(AND)

▶ 差 (引く)：差集合を求める

▶ 直積：直積集合を求める

○ 表操作

▶ 射影：表のフィールド名(項目)が与えられたとき、項目に該当するリストを抜き出す操作

▶ 選択：条件が与えられたときに、条件に合致するレコードを抜き出す操作

▶ 結合：複数の表を結び付ける (自然な結合:重複したレコードを削除)

□ SQL (Structured Query Language: 構造化問い合わせ言語)

○ 関係的表現のデータベース(RDB)を操作するための言語

おしまい

ICT リテラシー (情報技術論) A

おしまい

講義内容の静止画・動画での撮影、及び SNS 等への転載を固く禁じます